

○ ブリヂストンの挑戦の歩みとブリヂストンDNA

ブリヂストングループは、1931年の創業以来、「最高の品質で社会に貢献」を不変の使命として、変わりゆく社会のニーズに対応し、一人ひとりの「品質へのこだわり」「現物現場」「お客様の困りごとに寄り添う」「挑戦」というブリヂストンDNAはブリヂストンの挑戦の歩みとその歴史の中

Bridgestone 1.0

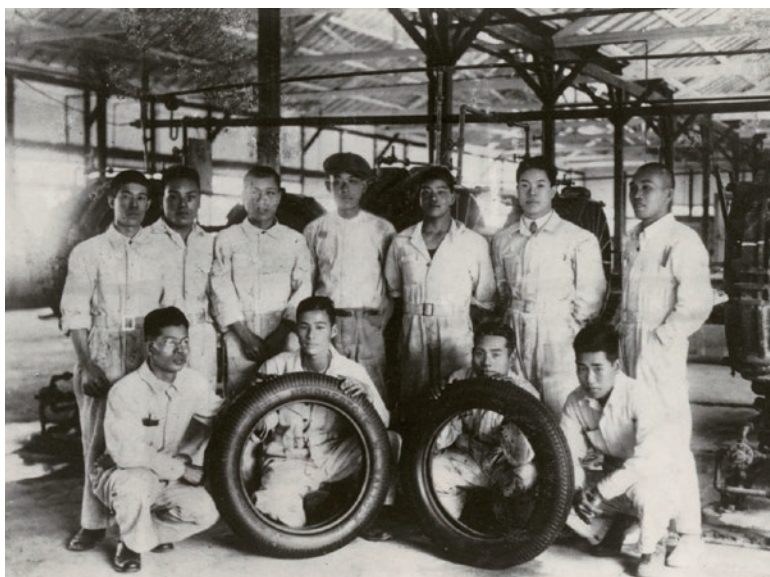
創業 —

1931-

創立

ブリヂストン創業前の20世紀初頭、自動車産業の発展と共に、欧米のタイヤメーカーが隆盛しましたが、日本では英米系の技術や資本に頼っている状況でした。このような状況下、石橋正二郎は日本の将来のモータリゼーションを確信し、「日本人の資本で、日本人の技術によるタイヤの国産化」に「挑戦」しました。さらに石橋正二郎は、良いものを安い値段で提供し、自動車の発展に貢献するとともに、製品を輸出して外貨を獲得することで、国際収支の改善という、当時の国策に貢献したいという国家的使命感を持っており、周りの強い反対を押し切り、事業化を決断しました。苦心を重ねた末、1930年には第1号の「ブリヂストンタイヤ」が誕生し、1931年3月1日に福岡県久留米市にて「ブリヂストンタイヤ株式会社」が設立され、今日のブリヂストンへと繋がります。

創業当時から海外進出を視野に入れており、商品イメージや海外市場での通用性といった点から、創業者の姓を英訳・語呂を良くし、社名・商標名「ブリヂストン」としました。その後、創業の地である福岡県久留米市から日本へ事業を拡大すると共に、創業の翌年には、アジアへも輸出を開始しました。創業から、日本、アジアの人々の安心・安全な移動、モータリゼーションを支え続けたことで、現在、アジア地域はブリヂストンの第2のホームマーケットとなっています。そして、困難なことに「挑戦」し、「品質にこだわり」、「現物現場」で「お客様の困りごとに寄り添う」というブリヂストンDNAは、この創業期から変わらず今日の当社へと受け継がれています。



第一号タイヤの誕生

安心・安全な移動や暮らしを支え続けるために、事業を拡大・進化させてきました。
で培われてきたものです。

1968-

社は「最高の品質で社会に貢献」を制定

石橋正二郎は、「永続する事業とは、社会に貢献する事業である」という信念を持っていました。デミング賞実施賞を受賞した1968年に制定された「最高の品質で社会に貢献」の社は、「品質へのこだわり」という当社グループのDNAを強く反映しており、現在も使命として受け継がれています。

社は
最高の品質で
社会に貢献
石橋正二郎

社は制定(1968年)

「デミング賞実施賞」受賞

1960年代、ブリヂストンは、経営の近代化と品質管理活動を推進しました。「デミングプラン」と称して全社的な企業体質改善に取り組み、1968年に卓越した総合的品質管理を実施している企業に与えられる「デミング賞実施賞」を業界で初めて受賞しました。



デミング賞実施賞メダル



デミング賞実施賞を受賞(1968年)

Bridgestone 2.0

第二の創業 —

1988-

グローバルブリヂストンへの「挑戦」

米国第2位のタイヤメーカー、ファイアストーン社を買収北米への本格進出を目指し、当時、米国第2位のタイヤメーカーであったファイアストーン社を買収しました。買収額は約26億ドル(約3,300億円)で、当時の日本企業の海外企業買収額としては最大の規模でした。この買収により当社はタイヤの世界シェアTOP3に名を連ねることになります。当社グループのグローバル化への道、ジャーニーが始まりました。ブリヂストンとファイアストーン、二つの異なる企業文化の融合など、多くの困難を克服しながらグローバル企業へと進化していきました。

Firestone



ファイアストーン社買収(1988年)

1997

最高峰のモータースポーツF1®参戦

当社は1963年の第1回日本グランプリからモータースポーツ活動を開始しました。挑戦の舞台を世界に広げ、1997年には、モータースポーツの最高峰であるF1®へ参戦しています。翌1998年には、ブリヂストンのタイヤを使用するチームが年間チャンピオンを獲得しました。その他、ファイアストーンブランドで1995年に米国INDYCAR® SERIESへ復帰、二輪の世界最高峰レースであるMoto GP™にも2005年に参戦しました。この「極限」への「挑戦」が、当社がグローバルカンパニーとして世界中でプレミアムタイヤを基盤としたビジネスを展開する原動力となりました。



1997-2010
Formula 1® 1998 Round 16 Suzuka

2002-2015
MotoGP™ 2015 Round 18 Valencia

2000-

Bridgestone 3.0へ向けて、ソリューション事業の展開を開始

「現物現場」で「お客様の困りごとに寄り添い」ながら、タイヤを「創って売る」から「使う」へと、お客様がタイヤを使う段階で断トツ商品の価値を増幅し、困りごとを解決するソリューション事業へと事業領域を広げました。

2007

リーディングリトレッド*カンパニー、バンダグ社を買収

お客様の生産性・経済価値の最大化に加え、サステナビリティへの貢献が高いリトレッド事業をグローバルに展開している米国のバンダグ社を買収し、ソリューション事業展開への基盤を整えました。現在、リトレッドはソリューション事業の中核として拡充しています。

*リトレッド: お客様が使用されたタイヤのすり減った表面(トレッド)部分のゴムを貼り替え、再び使用可能となったタイヤを提供



2019

欧州におけるリーディングデジタルフリートソリューションプロバイダー、Webfleet Solutions (旧 Tom Tom Telematics)を買収

デジタルを活用したフリート(運送)ソリューションの展開を開始しました。当社グループの持つタイヤの知見に、モビリティデータ・タイヤデータを組み合わせることで、新たな価値を提供しています。



Bridgestone 3.0

第三の創業 —

2020-

Bridgestone 3.0 : サステナブルなソリューションカンパニーへ

Bridgestone 3.0 Journey Vision

2050年 サステナブルな
ソリューションカンパニーとして、
社会価値・顧客価値を持続的に提供している会社へ

2020年を初年度とした「第三の創業」Bridgestone 3.0では、サステナビリティを経営の中核に据えた中長期事業戦略構想を発表し、「2050年 サステナブルなソリューションカンパニーとして社会価値・顧客価値を持続的に提供している会社へ」をビジョンとして掲げました。

さらに、ビジョンの実現へ向けた変革を加速するため、未来からの信任を得ながら経営を進める軸として、創立91周年となる2022年3月1日に、企業コミットメント「Bridgestone E8 Commitment」を制定しました。Bridgestone E8 Commitmentは、当社の使命、大原則「タイヤは生命を乗せている」、ブリヂストンDNAを反映し、ビジョンを具体化したものです。サステナブルなソリューションカンパニーとして、従業員、社会、パートナー、お客様と共に持続可能な社会を支え、企業としても持続的に成長し、価値を提供していける会社への変革へ挑戦し、このジャーニー、道のりをBridgestone 3.0 Journeyとして歩みを進めています。

2022

「2030年 長期戦略アスピレーション(実現したい姿)」発表

事業環境の変化が連続して起こり、予測困難な「変化が常態化」する時代を生き抜くため、2030年に実現したい姿を描き、その道筋とする「2030年 長期戦略アスピレーション(実現したい姿)」を発表しました。この道筋に沿って、当社の創立100周年となる2031年へ向けて、常態化する変化に動ぜず、ゴムのように強靱でしなやかに、変化をチャンスに変えるレジリエントな“エクセレント”ブリヂストンへの変革を加速しています。

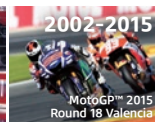
● 2030年 長期戦略アスピレーション(実現したい姿): 戦略マップ



2023

ブリヂストンモータースポーツ活動60周年

グローバルにおいてブリヂストンのブランド力向上に大きく貢献し、プレミアムタイヤ事業の基盤を築いてきたモータースポーツ活動が60周年を迎えました。これを機に、タイヤメーカーとしての「原点」に立ち戻り、サステナビリティを中核に据えたサステナブルなモータースポーツを強化していきます。



1963 Bridgestone 1.0

Bridgestone 2.0

Bridgestone 3.0

2023

